夜のくだもの屋 (2)

（合唱部に所属する「少女」は、コンクールのための練習でいつも帰りがおそくなっていました。「少女」は夜道が心細く、コンクールの課題曲を歌いながら帰っていましたが、なぜか家の近くにあるくだもの屋が、近頃（ちかごろ）おそくまで店をひらいていました。）

ある日、練習に熱がはいりすぎて、いつものおそい列車より、さらにひと列車おくれてしまったことがある。このときは、家に電話をして、父親に駅までむかえにきてもらった。あまりおそくなるな、と①たしなめられ、だって合唱だものしかたがない、コンクールまであとわずかのあいだだからと、すこしいさかい気味のことばをかわしながら歩いてくると、例のくだもの屋が、まだ明るい店をひらいている。

——おや、ここはずいぶんおそくまでやってるんだな。

父親が、気をかえるように言った。少女も②ほっとした声になって、

——うん。毎日、ここが明るいから、とても助かるの。

——そうか。じゃあ、お礼にりんごでも買っていくか。

——うん。

父親が声をかけて、あいそのいいおばさんからつつんでもらったりんごを、少女は胸にしっかりかかえながら、なんだか、この店のあかりを、りんごのかたちですこしばかりわけてもらったような気がした。

それから、半月。

コンクールもようやく無事にすんで、少女の日々はふたたび平常にもどった。夕方、早い列車で帰宅できるから、あのくだもの屋が、いまでも夜おそくまでひらいているのかどうか、少女は知らない。少女にとって、③それはもうどうでもいいことになっていた。

それからまもなくの日曜日。おなじ合唱部の友だちが入院したのを見舞（みま）おうと、少女は昼ちかくなってから家を出た。ほかの友だちと待ちあわせて、町で食事をしてから、午後の面会時間に病院をたずねる予定である。

——くだもの、ここで買っていこうかしら。

見舞いの品を買うのは、少女の分担になっていた。町の大きな店で、と思っていたのだが、このまえここで買ったりんごもおいしかったし、それに、あのあかりの恩恵（おんけい）を思うと、④もういちどくらい買いものをしなくては悪い気がする。

（杉みき子『小さな町の風景』偕成社　所収「夜のくだもの屋」による）

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「たしなめられ」とあるが、「たしなめる」の意味を選びなさい。

ア 物事を軽視する、見くびる。
イ 穏やかにしかる、注意をあたえる。
ウ 事情がわからず、間違ったことを言う。

〔　　〕

(2) ――線②「ほっとした声」とあるが、「少女」はなぜほっとしているのか。適当なものを選びなさい。

ア いつもよりもさらに帰りがおそくなってしまったところ、父親がむかえに来てくれたから。
イ 父親と帰りがおそいことで言い争いをするような雰囲気になっていたところ、話題が変わったから。
ウ 帰りがおそくなり暗い夜道をひとりで心細く思っていたところ、くだもの屋のあかりで安心したから。

〔　　〕

(3) ――線③「それ」が指す内容を本文中から三十字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし、句読点も一字に含む。

□□□～□□□

(4) ――線④「もういちどくらい買いものをしなくては悪い気がする」のはなぜか。適当なものを選びなさい。

ア くだもの屋のあかりのおかげで毎日助かっていたから。
イ くだもの屋のりんごがとてもおいしかったから。
ウ くだもの屋のおばさんがあいそのいい人だったから。

〔　　〕